親集約の変更

- 親集約の変更 （1 ページ）

親集約の変更

このアラームは、予期しないスーパーネットまたはしきい値違反を検出します。

ネットワークオペレータは通常、アドバタイズされたプレフィックスの直接のスーパーネットプレフィックス（集約またはサマリー）、およびその他の集約された上位スーパーネット、およびそれらの発信元 AS を認識しています。ユーザは、Classless inter-domain routing（CIDR）プレフィックス長を指定して、予想される IPv4 および IPv4 スーパーネットのセットを少なくとも 1 つ設定する必要があります。ユーザは、許可された送信元 AS のリストから、観測された集約が発信されるように強制することもできます。

（注） 問題にすぐに対処できるように、問題（ルート情報の漏えい、または何らかのタイプの設定不備）を起こしている可能性があるピアを知っておくと役立ちます。[マイピア（My Peers）] ルールは、特定の Crosswork Cloud サブスクリプションでこのアラームに使用できます。[マイピア（My Peers）] オプションは、ピアからの BGP 更新のみに従いますが、[すべてのピア（All Peers）] はピアおよびグローバルピアからの BGP 更新に従います。このオプションを設定するには、Crosswork Cloud Network Insights ポリシーの追加を参照してください。

考えられる検出される問題

このアラームは、サマリープレフィックスの誤った取り消しやルートリークを特定するのに役立ちます。

関連するアラームルールの設定

このアラームルールをプレフィックスポリシー設定に追加する場合は、次のオプションを設定する必要があります（[外部ルーティング分析（External Routing Analysis）] > [設定（Configure）] > [ポリシー（Policies）] > [ポリシーの追加（Add Policy）] > [プレフィックスポリシー（Prefix Policy）] > [ルールの追加（Add Rule）] > [親集約の変更（Parent Aggregate Change）]）。

- しきい値（アドバタイズされた集約ごと）
- [許可された発信元ASN（Allowed Origin ASNs）]（オプション）
- [許可されるIPv4/IPv6スーパーネット（Allowed IPv4/IPv6 supernets）]

例

[親集約の変更（Parent Aggregate Change）] アラームルールを使用してプレフィックスポリシーを作成し、プレフィックス 8.8.0.0/24 にリンクします。ポリシーは、許可された IPv4 集約プレフィックス長 [22, 9] および許可された発信元 AS 3356 で設定されます。次のイベントがアラームをトリガーします。

- 予想されるスーパーネット 8.8.0.0/22 がハイジャックされます（プレフィックスは予期しない発信元 AS から発信されます）。
- 集約、プレフィックス 8.8.0.0/20 がアドバタイズされ、潜在的なリークとして識別されます。

リークまたはハイジャックが解決されるか、ユーザがアラーム設定を変更して、これらの集約アドバタイズメントが正当であることを示すと、アラームはクリアされます。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。